

執筆担当	所在地	畜種	キーワード
本所 改良部 生産衛生課	福島県 西郷村	全般 (鶏)	鳥インフルエンザ、防疫演習

特定家畜伝染病を想定した地域の防疫演習に参加して ～鳥インフルエンザの場合～

1. はじめに

家畜改良センター本所は福島県南部の西郷村にあり、福島県ではこのあたりの地域は県南地方と呼ばれています。この地域では、防疫作業の拠点となる集合センターの候補施設（体育館等）を利用する形で、特定家畜伝染病の発生を想定した防疫演習が毎年開催されており、家畜改良センターは参集者として毎年参加しています。今年度は鳥インフルエンザの発生を想定した演習が 10 月 9 日に開催されましたので、その様子をご紹介します。

なお、今回参加した演習は、県庁職員を防疫作業員として受け入れる想定で実施されました。

2. 消毒ポイント（畜産関係車両等の消毒）

防疫作業員である県庁職員到着前に、車両の誘導から消毒（搭乗者含む）、車両消毒証明書の手交までのデモが行われました。



- ①②誘導担当が搭乗者に説明し、消毒ポイントへ車両を誘導
- ③ 消毒担当がタイヤ周り等ボディ下部を中心に車体を上から下へ消毒
- ④⑤車内は運転席も拭き取り等により消毒
- ⑥ 搭乗者の踏込消毒、手指消毒後に、車両消毒証明書を手交

3. 集合センター（防疫作業員受入）

集合センターで作業概要の説明があった後、実際に県庁職員搭乗バスが到着し、受付や健康観察、防護服の着用等の演習が行われました。



- ① 受付後に検温や血压測定、保健師による問診などを実施
- ② 手荷物は持ち込めないため、預かり票と共に預け入れ
- ③ 防護服や手袋等防疫作業用資材の受取
- ④ 担当班や氏名の表示例→所属班が分かるように大きく表示、名字をカタカナで記載
- ⑤⑥防護服は2重で着用し、入場口と別の出口から農場へ出発

※この他、保健所から防疫作業後の健康観察などについても話がありました。

4. 隣接テント及び農場（殺処分）

農場到着後の防護服の着脱、模型を使った鶏の殺処分や炭酸ガスの取扱いのデモがありました。



- ① マスクやゴーグル、長靴、手袋を装着し、継ぎ目をテープで目張り
- ②③ケージを開け、捕鳥し、炭酸ガス注入用の穴の開いたペールに鶏を投入
- ④ ガスボンベを操作し、ペールに炭酸ガスを注入
- ⑤ 防護服の脱衣前に全身の消毒と踏込消毒を実施
- ⑥ 防護服の外側は汚染されているので触らないように脱衣し、集合センターに帰還する際は新しい防護服に更衣

※この他、ガスボンベの取扱いに関する注意などについても話がありました。

5. 集合センター（防疫作業員帰還）

防疫作業が終了し、出発時と別の入口から入場し、健康観察及び預けていた手荷物を受け取り、帰宅する行程の演習が行われました。行程は概ね受入時と同様でした。



6. 最後に

今回の防疫演習では、特定家畜伝染病発生時における防疫作業員の一連の流れ等について学ぶことができました。

家畜改良センターでは国内において、高病原性鳥インフルエンザ等家畜伝染性疾病が発生し、農林水産省等から防疫対応作業等への人員派遣要請があった場合には、業務に支障のない範囲で、積極的に対応することとしています。また、仮に家畜改良センターの牧場において特定家畜伝染病が発生してしまった場合においても、防疫作業員との連携は必須となります。以上のことを考えると、このような演習に参加し、情報共有を行うことは非常に有用だと考えられます。

自治体主催の防疫演習は参考範囲が限られたものとなります、この機会に今一度防疫対策の振り返り等を検討してみてはいかがでしょうか。